

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。※□内は、ロットNo.表示位置を示します。

■取付けされる方へのお願い

- 同梱されている取扱い説明書は、必ず施主様へお渡しください。
- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

※製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

●設置条件

- それぞれの地域に対応したテラスをお選びください。
一般地域600タイプ→耐えられる積雪量の目安20cm相当〔600N/m² (61.2 kgf/m²)〕
特殊地域1500タイプ→耐えられる積雪量の目安50cm相当〔1500N/m² (153.0 kgf/m²)〕
特殊地域3000タイプ→耐えられる積雪量の目安100cm相当〔3000N/m² (305.9 kgf/m²)〕
- 本製品は、タイプ・サイズごとに設置可能な階数が決まっています。右記の表にしたがって取付けてください。
- 柱の移動は、当社指定範囲内にしてください。
- 他社商品 (バルコニーなど) と合わせて設置しないでください。
- 高い建物のそばや周りに障害物がなく、直接強い風が吹くような場所では補強プレスで製品の補強をしてください。
- 母屋の屋根からの雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。
- 風当たりの強いところでは風が抜けなくなりますので、テラスの周囲を囲わないでください。
- 崖っぶちなどの高低差のあるところには設置しないでください。

■アルファテラス 標準タイプ

	1階	2階	3階
3・4尺	○	○	○
5・6尺	○	○	×
7~10尺 12・15尺	○	×	×

■アルファテラス 下止めタイプ

	1階	2階	3階
3・4尺	○	○	○
5~7尺	○	○	×

※3.0間通しは、1階のみ設置可能です。



●躯体への固定

- 垂木掛け、柱壁付固定部品は柱・間柱・胴差しなどの構造材に必ず止めてください。躯体位置が分からない場合、および躯体が強度保持できない場合は取付けしないでください。
- 躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
- プラグ類を使用して、モルタル部分だけで固定することは非常に危険ですから絶対に行わないでください。
- タッピングねじの下穴には、指定より太いドリルを使用しないでください。

●部材の固定

- 組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まないように締付けてください。

●取付け時の足場について

- 取付け時は必ず足場を設け、転落などの危険がないようにしてください。

●基礎について

- 基礎は当社指定寸法以上にしてください。
- 海砂を使用の場合は水洗いしたものを使用してください。アルミが腐食するおそれがあります。
- 取付け前に調査を行い、地下埋設物 (給排水管など) に影響をおよぼさないようにしてください。
- 寒冷地では凍上線より下まで柱を埋込んでください。凍上により浮上するおそれがあります。
- 柱 (屋根柱は除く) には水抜きできるよう、柱基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴 (φ6) をあけてください。柱間の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- 養生期間は十分 (4日~1週間以上) にとり、その間は、重たいものをのせたり、振動を与えたりしないよう指示してください。
- コンクリート (又はモルタル) に急結材は絶対に使用しないでください。

●パネルについて

- 屋根パネルは当社指定品をご使用ください。
- 屋根の取付けは垂木へののみこみが左右均等になるようにしてください。パネルが強風により、飛散するおそれがあります。

●取付け上について

- みだりに改造・変更をしないでください。
- 前枠の内観右側にブランドラベルが張ってあります。間口切詰めをする際には、ブランドラベルがなくならないようにしてください。

※製品腐食のおそれがありますので、下記事項をお守りください。

●絶縁処理

- アルミ形材が垂鉛・ステンレス以外の金属と接触するときは、絶縁処理をしてください。

※水漏れのおそれがありますので、下記事項をお守りください。

●シーリングについて

- シーリングは指定個所に必ず行ってください。
- 外壁の上から部材を取付ける場合は、コーキング材を下穴に充てんしてからねじ止めしてください。
- シリコンシーリングを行う場合、アクリル板およびポリカーボネート板のひび割れなどが考えられますので、当社指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

■シーリングメーカー

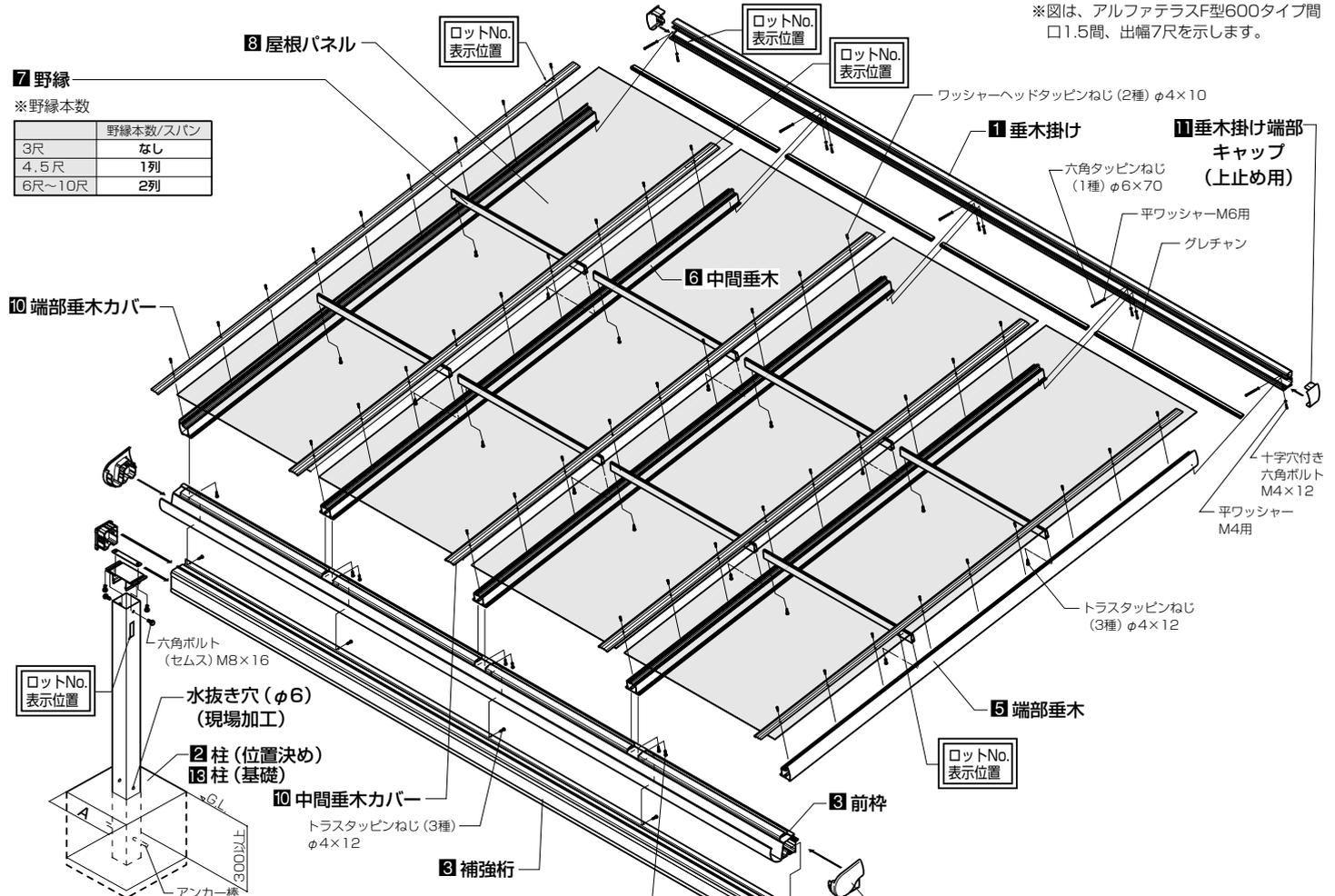
・信越化学工業	シーラント72
・東芝シリコン	トスシール380
・東レシリコン	SE960

■取付け上のお願

- 水平・垂直は水準器などで正確に出してください。
- 取付けは専門業者が行ってください。
- 当社指定の付属品以外は取付けしないでください。

■構造説明図

※図は、アルファテラスF型600タイプ間口1.5間、出幅7尺を示します。



■基礎サイズ表 (A寸法)

タイプ	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間通し	3.0間通し
600タイプ	3R	□300	□500	□550	3R
	4R				
	5R				
	6R				
	7R				
	8R				
1500タイプ	3R	□300	□500	□550	3R
	4R				
	5R				
	6R				
	7R				
	8R				
3000タイプ	3R	□500	□550	□550	3R
	4R				
	5R				
	6R				

※本説明書は、下表○印のサイズについて説明しています。

600タイプ

	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間通し	3.0間通し
3~6尺	○	○	○	○	○
7~10尺	○	○	○	○	○
12・15尺	○	○	○	○	○

1500タイプ

	1.0間	1.5間	2.0間
3~6尺	○	○	○
7~9尺	○	○	○

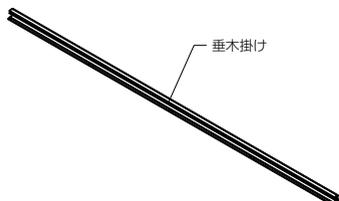
3000タイプ

	1.0間	1.5間	2.0間
3~6尺	○	○	○

※出幅8尺以上は垂木ピッチが1/2になります。

■取付け順序

1 垂木掛の固定



▲注意

- シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
- 信越化学工業 シーラント72
- 東芝シリコン トスシール380
- 東レシリコン SE960

■取付け詳細

1 垂木掛の固定

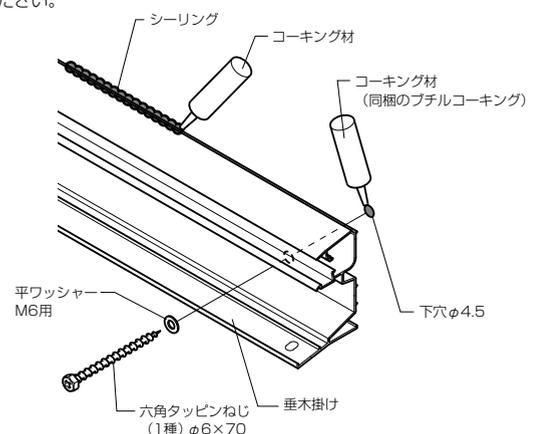
●垂木掛けを躯体に取付ける際、必ず水準器で水平を出してください。

▲注意

- 垂木掛けは必ず躯体の柱・間柱などの構造材に取付けてください。
- 躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
- 指定の個所に必ずシーリングしてください。

【関西間・九州四国間・メーターモジュールの場合】

●関西間・九州四国間・メーターモジュールの場合、垂木掛けに躯体取付け用の穴はあいていません。柱および間柱の位置に合わせてφ6.5の穴をあけてください。



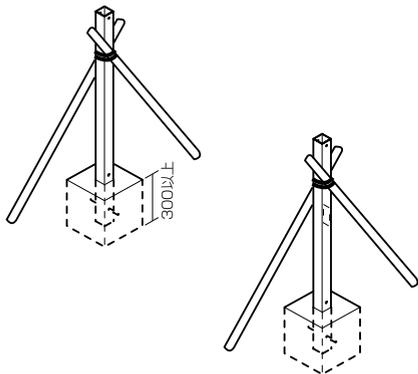
2 柱の位置決め

<柱を基礎で固定する場合>

- ①柱埋込み位置決定
- ②柱の仮固定

<造付けバルコニーの場合>

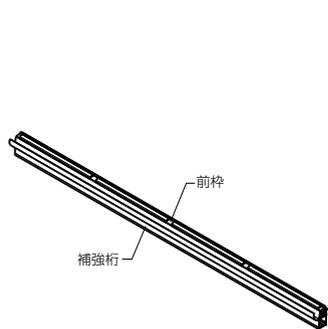
- ①柱キャップの取付け
- ②柱壁付用固定部品の取付け
- ③柱の仮止め
- ④柱の固定



▲ 注意

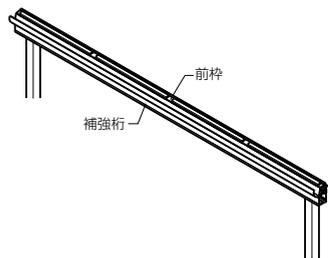
- 指定の個所に必ずシーリングしてください。

3 前枠-補強桁の取付け



4 柱-前枠・補強桁の取付け

- ①柱固定金具と前枠・補強桁の固定
- ②柱固定金具と柱の固定



※間口が大きい場合、補強桁の重量が重くなるため、補強桁を柱に取付けた後、前枠を補強桁に取付けてください。

▲ 注意

- 前枠の内観右側にブランドラベルが張ってあります。間口切詰めをする際は、ブランドラベルがなくならないようにしてください。

2 柱の位置決め

<柱を基礎で固定する場合>

- ※注意ラベルが必ず内側にくるように設置してください。
- ①柱埋込み位置を出し基礎穴を掘ります。柱の位置は右図とP.11の納まり図を参考に決めてください。
 - ②柱が倒れないように仮固定してください。

<柱を造付けバルコニーに固定する場合>

- ※注意ラベルが必ず内側にくるように設置してください。
- ①柱の下部に柱キャップを図のように取付けてください。
 - ②部品の取付け
躯体に柱壁付用固定部品を取付けます。

▲ 注意

- 柱壁付用固定部品は必ず柱・間柱などの構造材に固定してください。
- 躯体位置が分からない場合および躯体が強度保持できない場合は取付けしないでください。

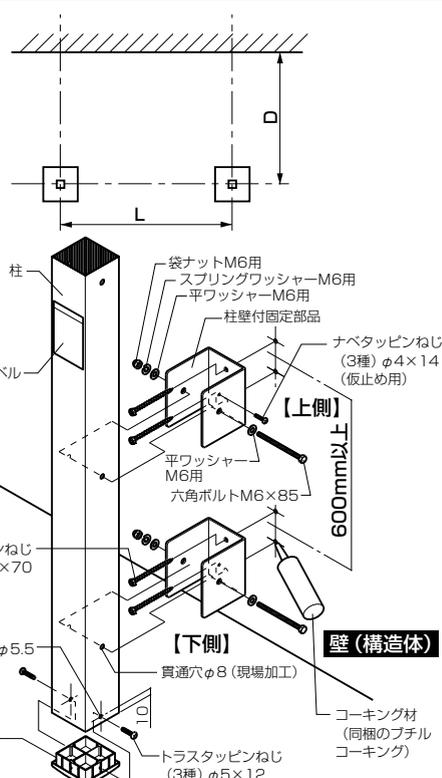
※固定部品の間は600mm以上あけてください。

③柱の仮止め(垂直出し)

- 1.柱を上側の部品固定穴をφ8(貫通穴)で加工してください。
- 2.柱を上側の部品に取付け、垂直を出して、ねじで仮止めします。

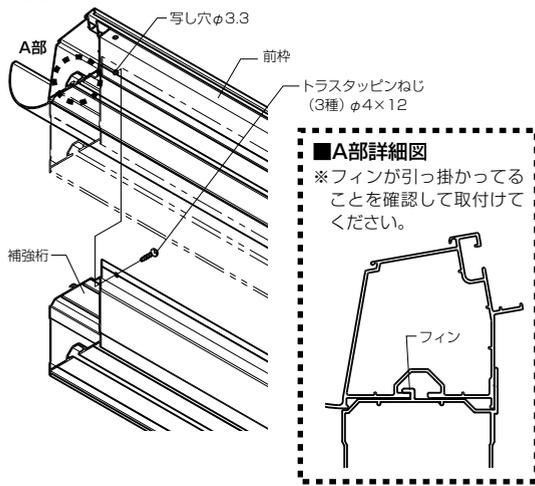
④柱の固定

- 1.下側の部品にあいている穴に合わせ、φ8(貫通穴)をあけます。
- 2.ボルトで柱を固定します。



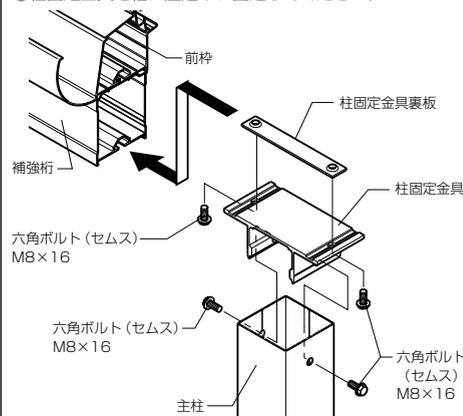
3 前枠-補強桁の取付け

- 前枠にφ3.3の写し穴をあけた後、前枠と補強桁を取付けてください。



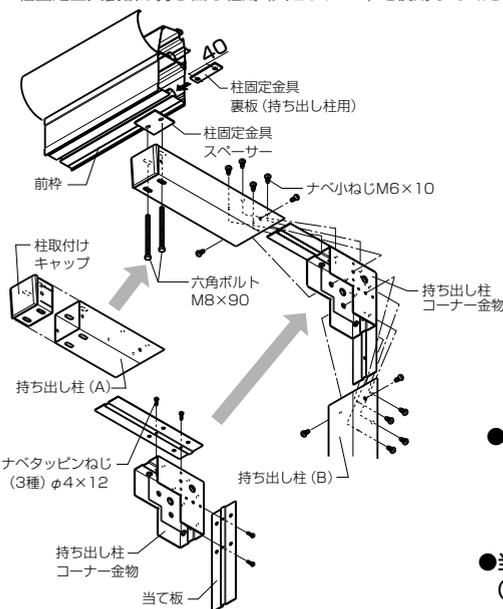
4 柱-前枠・補強桁の取付け

- ①柱固定金具裏板を補強桁の溝に挿入し、柱固定金具とボルトで仮固定してください。5の端部垂木を取付けた後、直角を出して固定してください。
- ②柱固定金具を柱に差込み、固定してください。



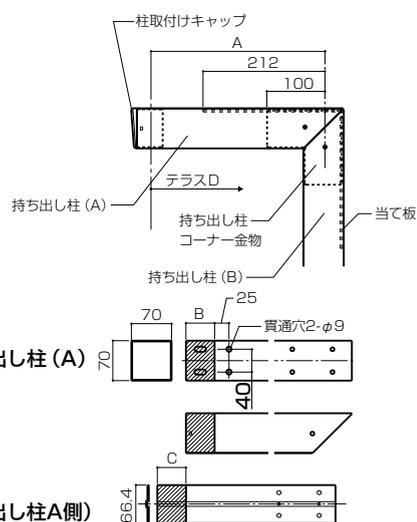
<持ち出し柱の場合>

- ※はじめに必ず柱取付けキャップを取付けてください。
※柱固定金具裏板は持ち出し柱用(穴ピッチ40)を使用してください。

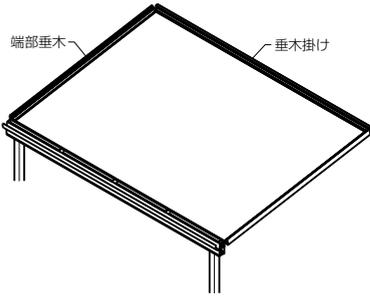


<持ち出し柱の切詰め>

- 下図、切詰め寸法計算式および加工図より、切詰め加工してください。
- ※切詰め寸法は180mmまで可能です。
B=300-A (切詰め寸法Bは0~180mmまで可能です。)
C=232-A (A寸法が232以上の場合、C=0です。)

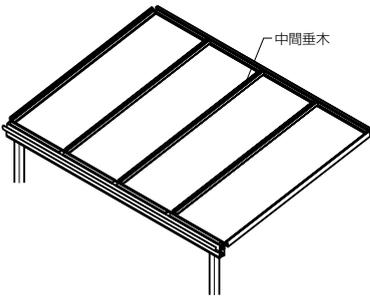


5 端部垂木の取付け

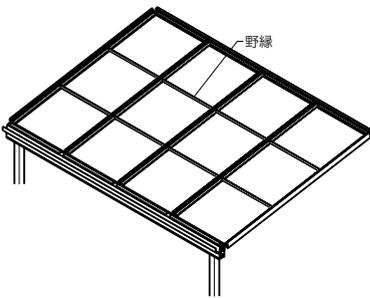


6 中間垂木の取付け

※補強垂木の取付け (3000タイプのみ)

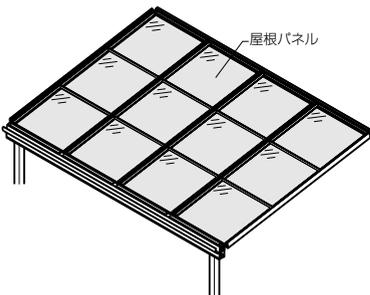


7 野縁の取付け



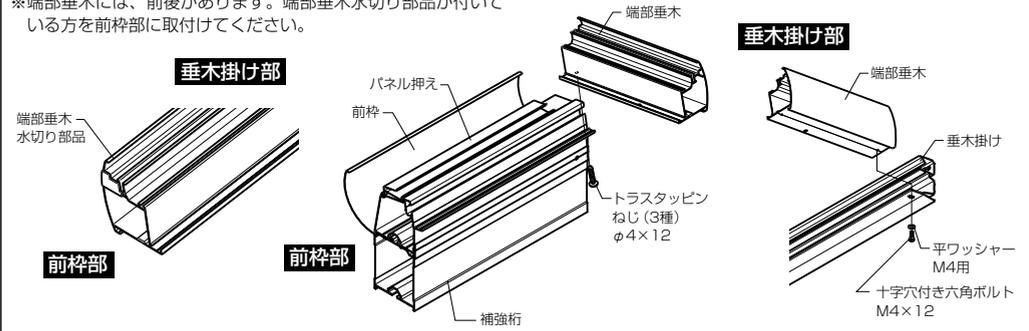
8 屋根パネルの取付け

- ①パネル押えの位置合わせ
- ②屋根パネルの取付け



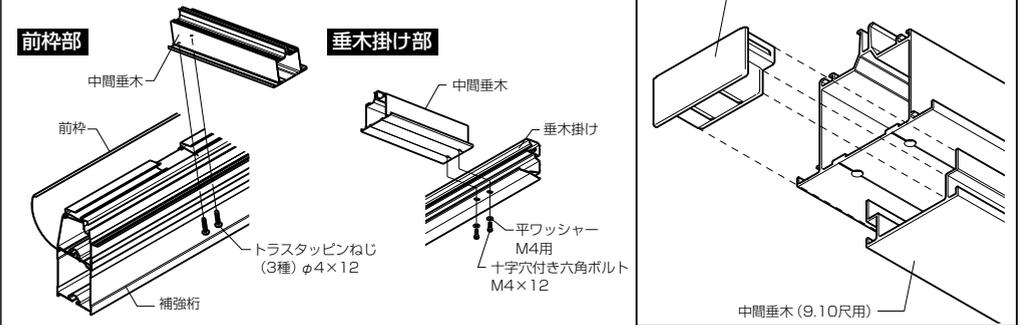
5 端部垂木の取付け

●図のように端部垂木を前枠・垂木掛けに取付けてください。
※端部垂木には、前後があります。端部垂木水切り部品が付いている方を前枠部に取付けてください。



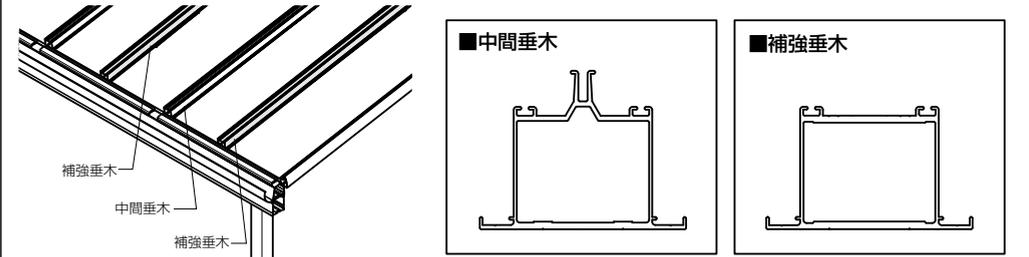
6 中間垂木の取付け

●図のように中間垂木を前枠・垂木掛けに取付けてください。
※中間垂木9・10尺用には中間垂木L端部キャップが取付きます。
※中間垂木L端部キャップは、中間垂木を前枠および垂木掛けに取付ける前に取付けてください。



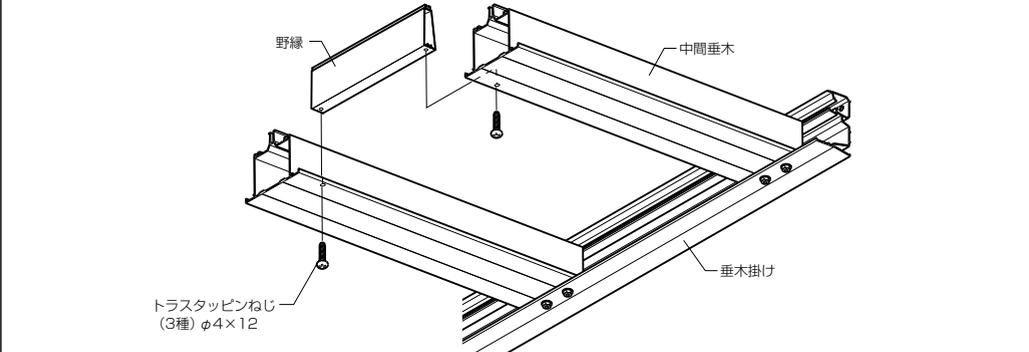
補強垂木の取付け (3000タイプのみ)

※補強垂木は中間垂木同様に前枠・垂木掛けに取付けてください。
※補強垂木は中間垂木と交互に取付けてください。



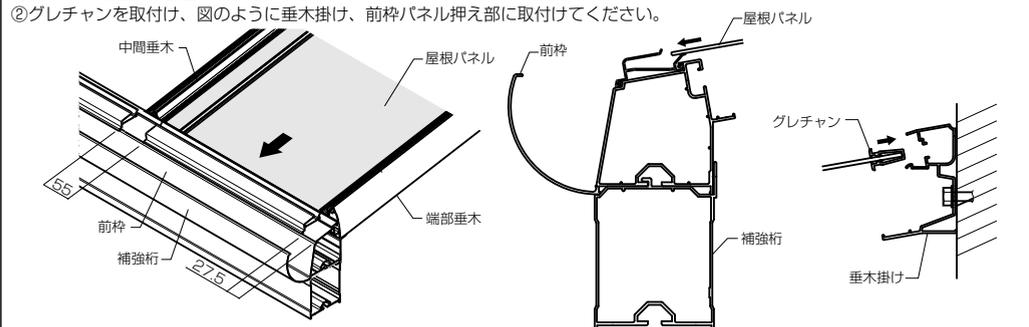
7 野縁の取付け

●真中のスパンから順に図のように野縁を垂木又は端部垂木にねじ止めしてください。
※600タイプ出幅3尺は、野縁の取付けは不要です。

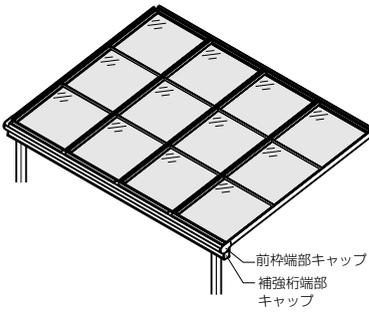


8 屋根パネルの取付け

- ①パネル押えを図の位置に合わせます。
- ②グレチャンを取付け、図のように垂木掛け、前枠パネル押え部に取付けてください。



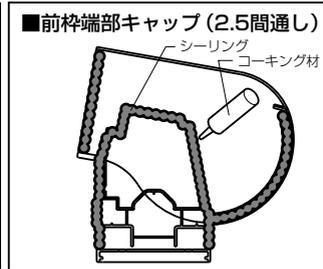
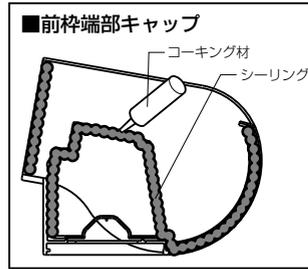
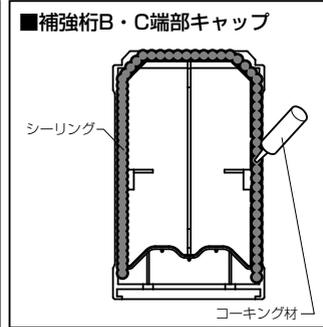
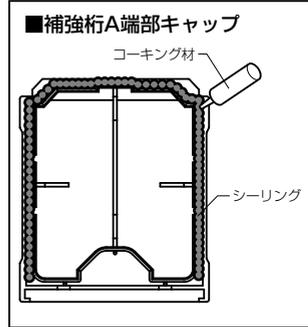
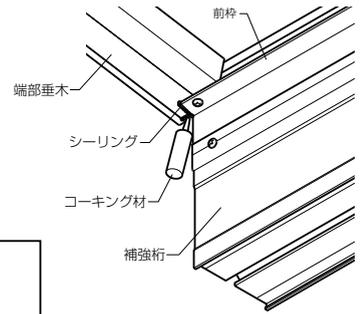
9 前枠端部キャップ・補強桁端部キャップの取付け



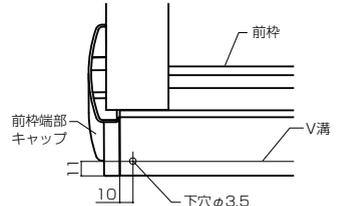
- ▲ 注意**
- 指定の個所に必ずシーリングしてください。
 - シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
 - ・ 信越化学工業 シーラント72
 - ・ 東芝シリコン トスシール380
 - ・ 東レシリコン SE960

9 前枠端部キャップ・補強桁端部キャップの取付け

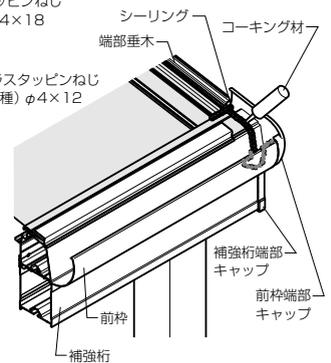
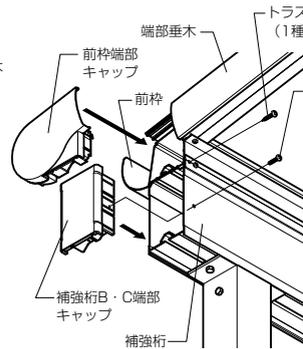
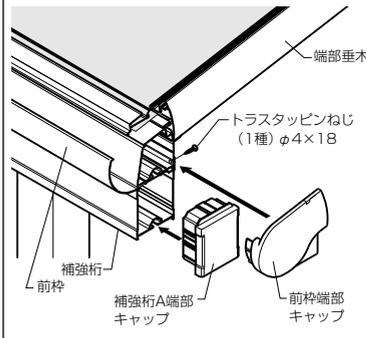
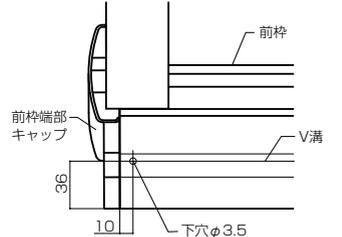
- ① 前枠と端部垂木の接合部に図のようにシーリングをしてください。
- ② 補強桁端部キャップにシーリングをした後、補強桁に取付けてください。
※補強桁B・C端部キャップの場合は、補強桁端部キャップにシーリングをした後、補強桁にねじ止めしてください。
- ③ 前枠端部キャップにシーリングをした後、前枠にねじ止めしてください。前枠には、下図を参考に下穴φ3.5をあけてからねじ止めしてください。
- ④ ねじ止めた後に、前枠内部にシーリングしてください。
※補強桁端部キャップは、前枠端部キャップを取付ける前に取付けてください。



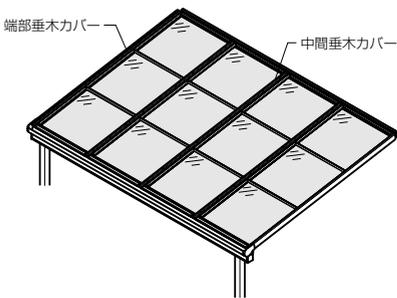
● 前枠A



● 前枠B



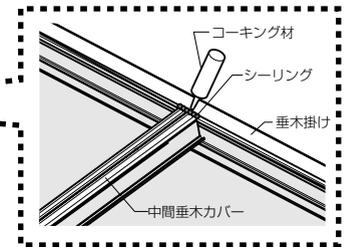
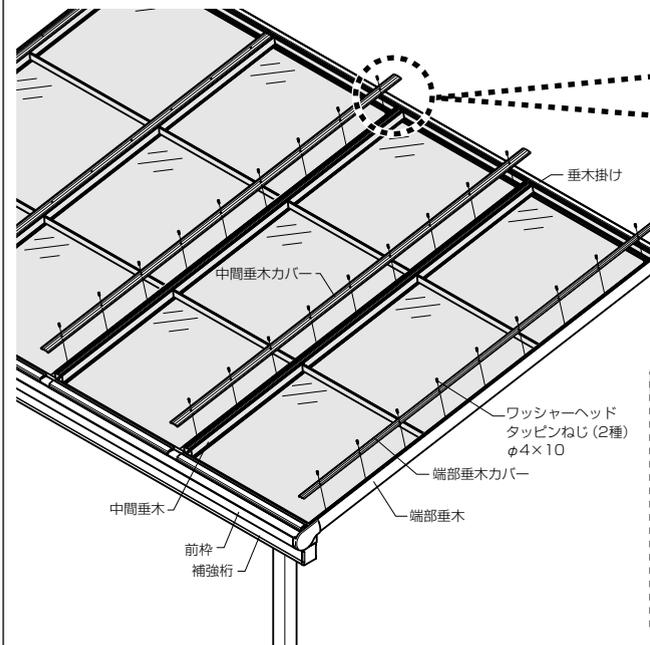
10 垂木カバーの取付け



- ▲ 注意**
- 屋根の取付けはパネルのみ込みが左右均等になるようにしてください。
 - 養生シートの切れ目
 - 養生シートの切れ目
 - 中間垂木
 - 屋根パネル
- ※8尺以上は片側のみ養生シートの切れ目があります。

10 垂木カバーの取付け

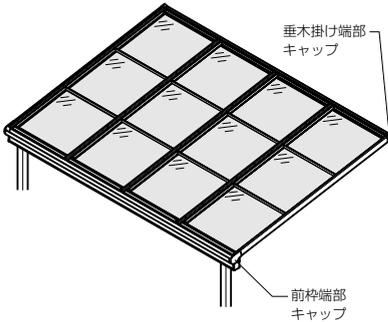
- ① 垂木カバーを垂木掛け側から押込み、図のようにねじ止めしてください。
- ② 図のようにシーリングしてください。



▲ 注意

- 指定の個所に必ずシーリングしてください。
- シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
- ・ 信越化学工業 シーラント72
- ・ 東芝シリコン トスシール380
- ・ 東レシリコン SE960

11 垂木掛け端部キャップ (上止め用) の取付け

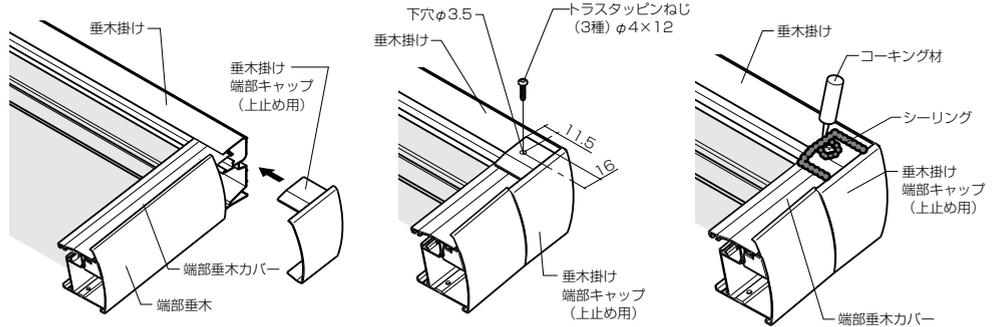
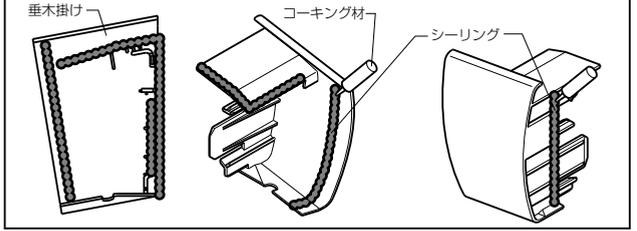


▲ 注意
● 指定の個所に必ずシーリングしてください。

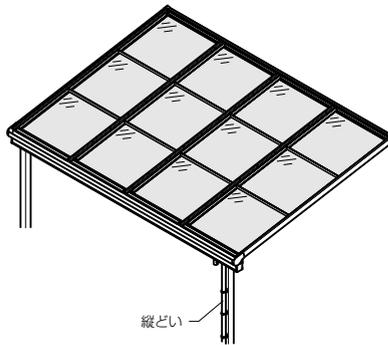
11 垂木掛け端部キャップ (上止め用) の取付け

- ① 垂木掛け端部キャップ (上止め用) にシーリングした後、キャップを取付けてください。
- ② 取付けた端部キャップに下図を参考に下穴φ3.5をあけてください。
※ 障害物などによりねじの取付けが不可能な場合は、下穴加工およびねじ止めは不要です。
※ 下穴は垂木掛けの形材まであけてください。
- ③ 端部キャップを手回しドライバーでねじ止めてください。
- ④ ねじ止めた後に、垂木掛け端部キャップ (上止め用) の上部に図のようにシーリングしてください。

■ 垂木掛け端部キャップ (上止め用)



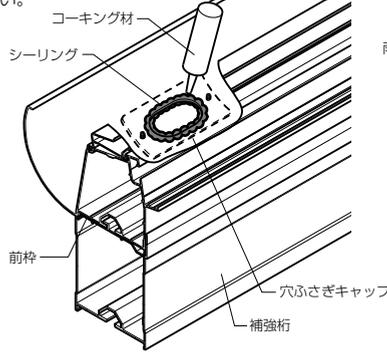
12 雨どいの取付け



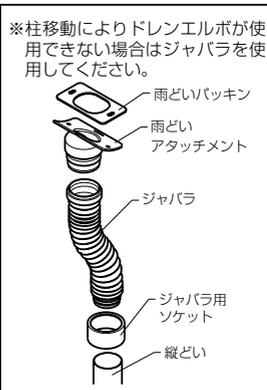
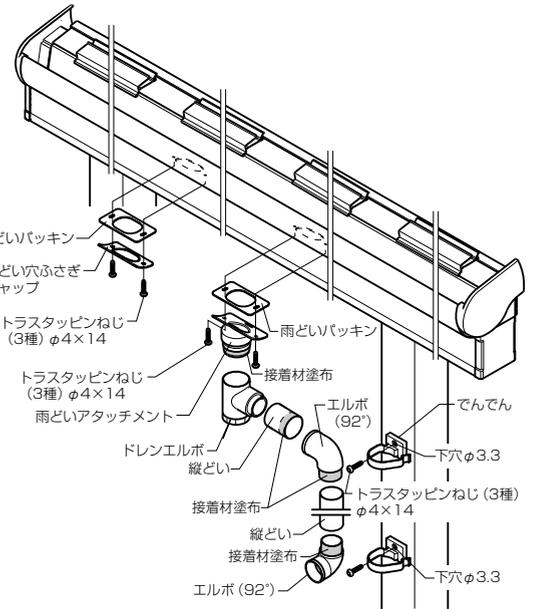
▲ 注意
● シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
・ 信越化学工業 シーラント72
・ 東芝シリコン トスシール380
・ 東レシリコン SE960

12 雨どいの取付け

- ① 図のように取付けてください。
- ② 雨どい穴ふさぎキャップ取付け後、図のようにシーリングしてください。
※ 前面スクリーン (オプション) を取付ける場合は、柱の側面に縦どいを取付けてください。
※ 2.5間通しの7尺以上は、前枠両端に雨どいを取付けてください。



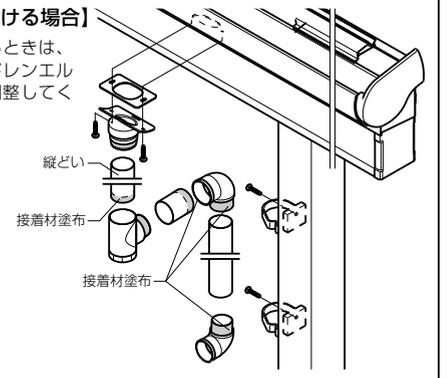
▲ 注意
● 指定の個所に必ずシーリングしてください。



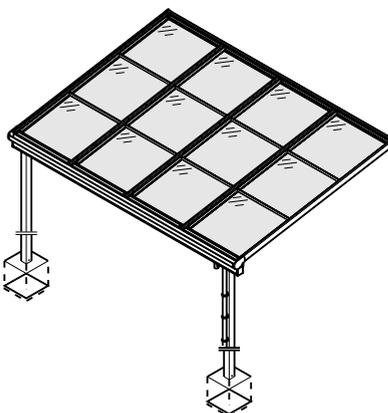
※ 柱移動によりドレンエルボが使用できない場合はジャバラを使用してください。

【雨どいを柱の側面に取付ける場合】

※ といを柱の側面に取付けるときは、雨どいアタッチメントとドレンエルボの間に縦どいを入れて調整してください。



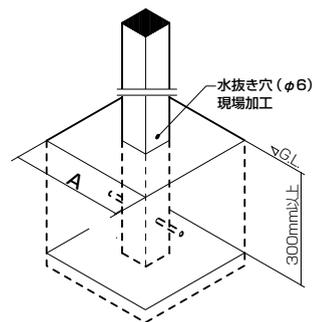
13 柱 (基礎)



13 柱 (基礎)

- ① 図の寸法で、柱埋込み穴をコンクリート (又はモルタル) で埋めてください。
※ A寸法はP.2の基礎サイズ表をご覧ください。
※ 基礎に水がたまりやすい場合は、基礎自体に水こう配をつけてください。
- ② 柱と基礎の付け根に水抜き穴 (φ6) をあけてください。

▲ 注意
● 地下埋設物 (給水管など) に影響をおよぼさないようにしてください。
● コンクリート (又はモルタル) に急結材は絶対に使用しないでください。
● 海砂はアルミを腐食させるおそれがありますので、水洗いしたものをご使用ください。



■ 連棟タイプの場合

※ 連棟時の間口部材（前枠・垂木掛け）の切詰めは不要です。

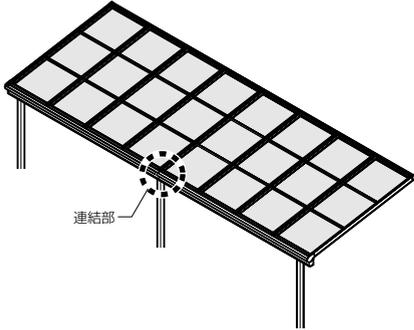
1 前枠・補強桁の加工

2 垂木掛けの取付け

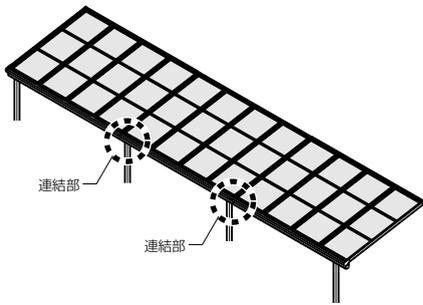
3 前枠・補強桁連結部の組立て…その①

- ① 前枠スリーブの取付け
- ② 補強桁スリーブの取付け
- ③ 前枠ジョイントカバーの取付け

【連結部に柱が取付く場合】



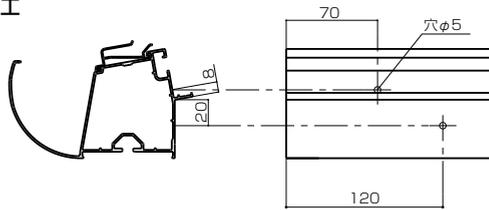
【連結部に柱が取付かない場合】



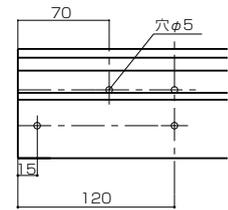
1 前枠・補強桁の加工

● 前枠・補強桁の連結する側の端部に図のようにφ5の穴をあけてください。

● 前枠の加工



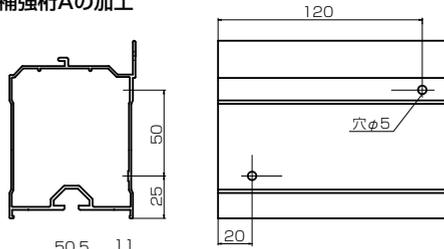
【連結部に柱が取付く場合】



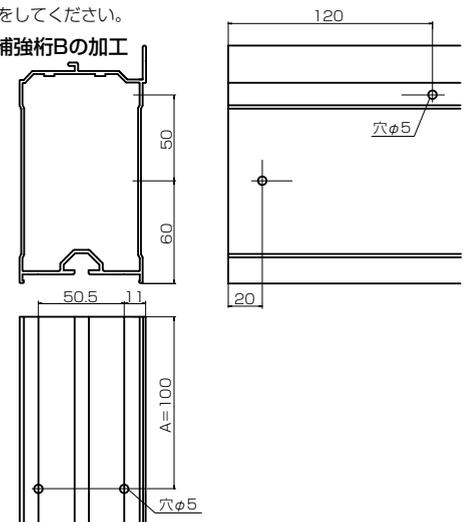
【連結部に柱が取付かない場合】

※ 1500タイプ 1.0~2.0間×7~10尺の前枠についても同様の加工をしてください。

● 補強桁Aの加工



● 補強桁Bの加工



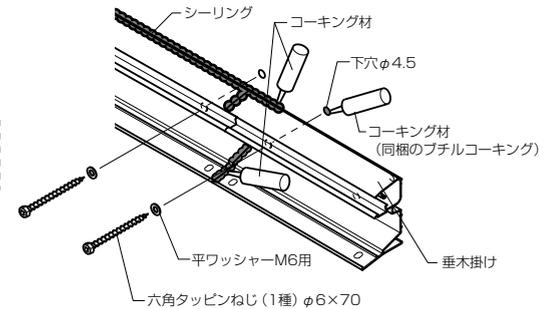
※ 連結部から柱を移動させた場合、ねじが柱固定金具と干渉する場合がありますので、柱固定金具をよけた所に加工してください。ただし、A寸法は連結部より120mm以内にしてください。

2 垂木掛けの取付け

● 垂木掛けの躯体取付け穴（φ6.5）を柱や間柱など躯体構造位置に合わせてあげ直した後、取付けてください。

▲ 注意

● 指定の個所に必ずシーリングしてください。



3 前枠・補強桁連結部の組立て

① 前枠を前枠スリーブにねじ止めします。

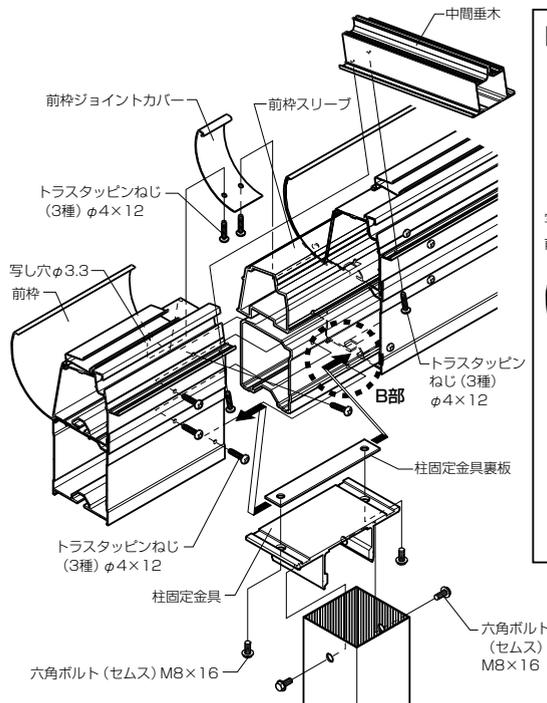
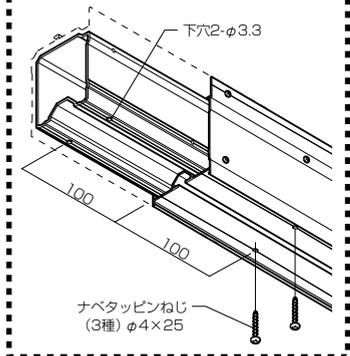
② 補強桁を補強桁スリーブにねじ止めします。

③ 前枠ジョイントカバーをねじ止めします。

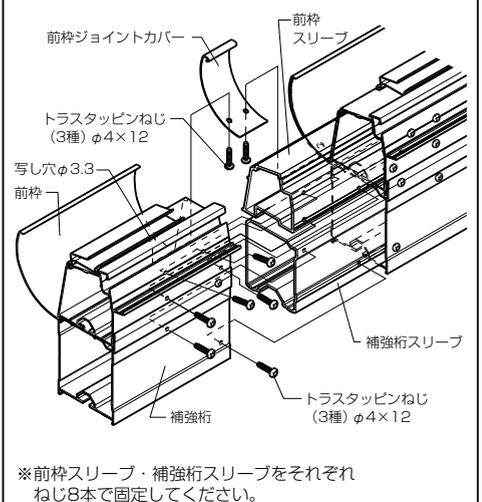
※ 連結部には垂木が取付きます。

※ 前面スクリーン（オプション）を取付ける場合は、前枠ジョイントカバーは取付けしないでください。

■ B部詳細図



【連結部に柱が取付かない場合】



※ 前枠スリーブ・補強桁スリーブをそれぞれねじ8本で固定してください。

■ 連棟タイプの場合【1500タイプ 1.0~2.0間×7~9尺の場合】

※ 連棟時の間口部材（前枠・垂木掛け）の切詰めは不要です。

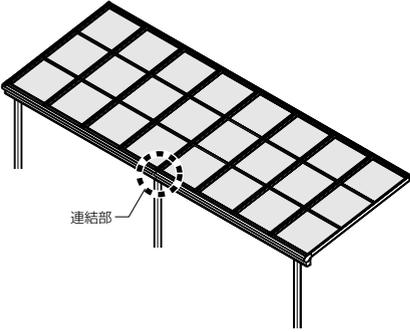
1 前枠・補強桁の加工

2 垂木掛けの取付け

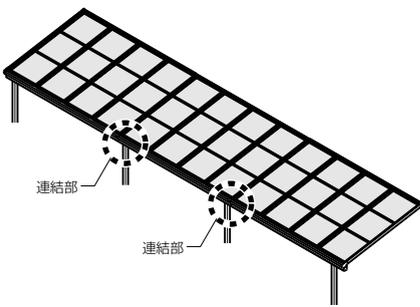
3 前枠・補強桁連結部の組立て…その②

- ① 前枠スリーブの取付け
- ② 補強桁スリーブの取付け
- ③ 前枠ジョイントカバーの取付け

【連結部に柱が取付く場合】



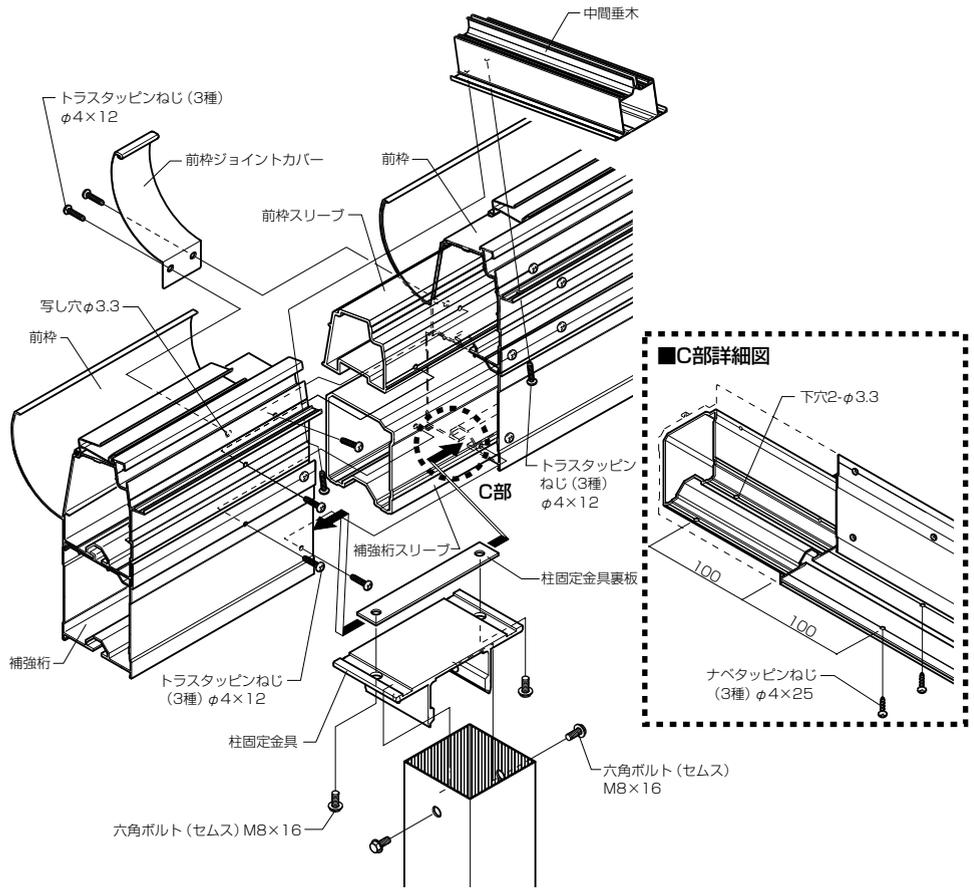
【連結部に柱が取付かない場合】



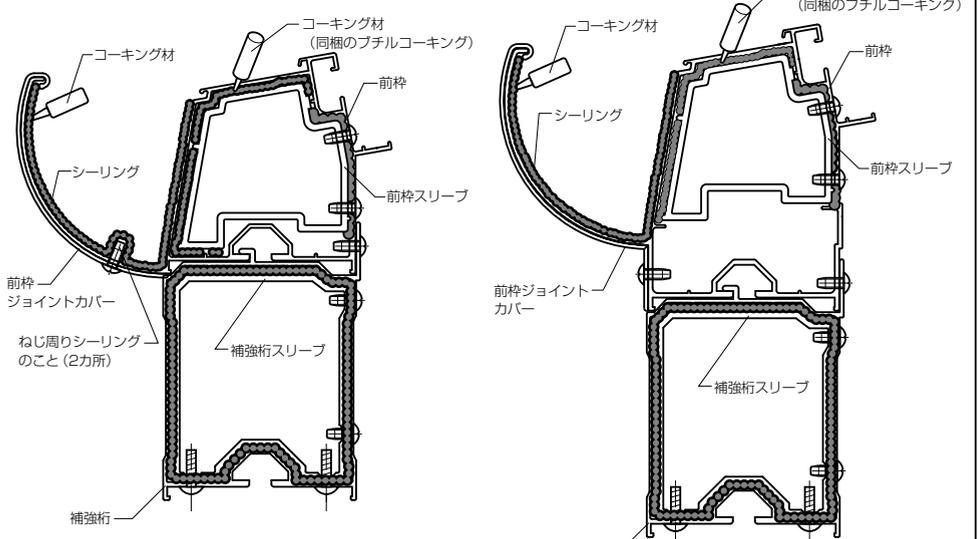
▲ 注意

● シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

- ・ 信越化学工業 シーラント72
- ・ 東芝シリコン トスシール380
- ・ 東レシリコン SE960

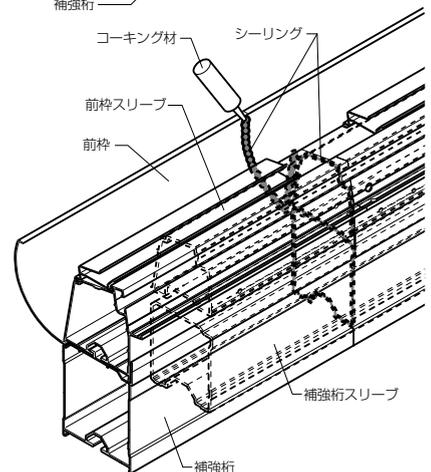


※ ジョイントシーリング箇所



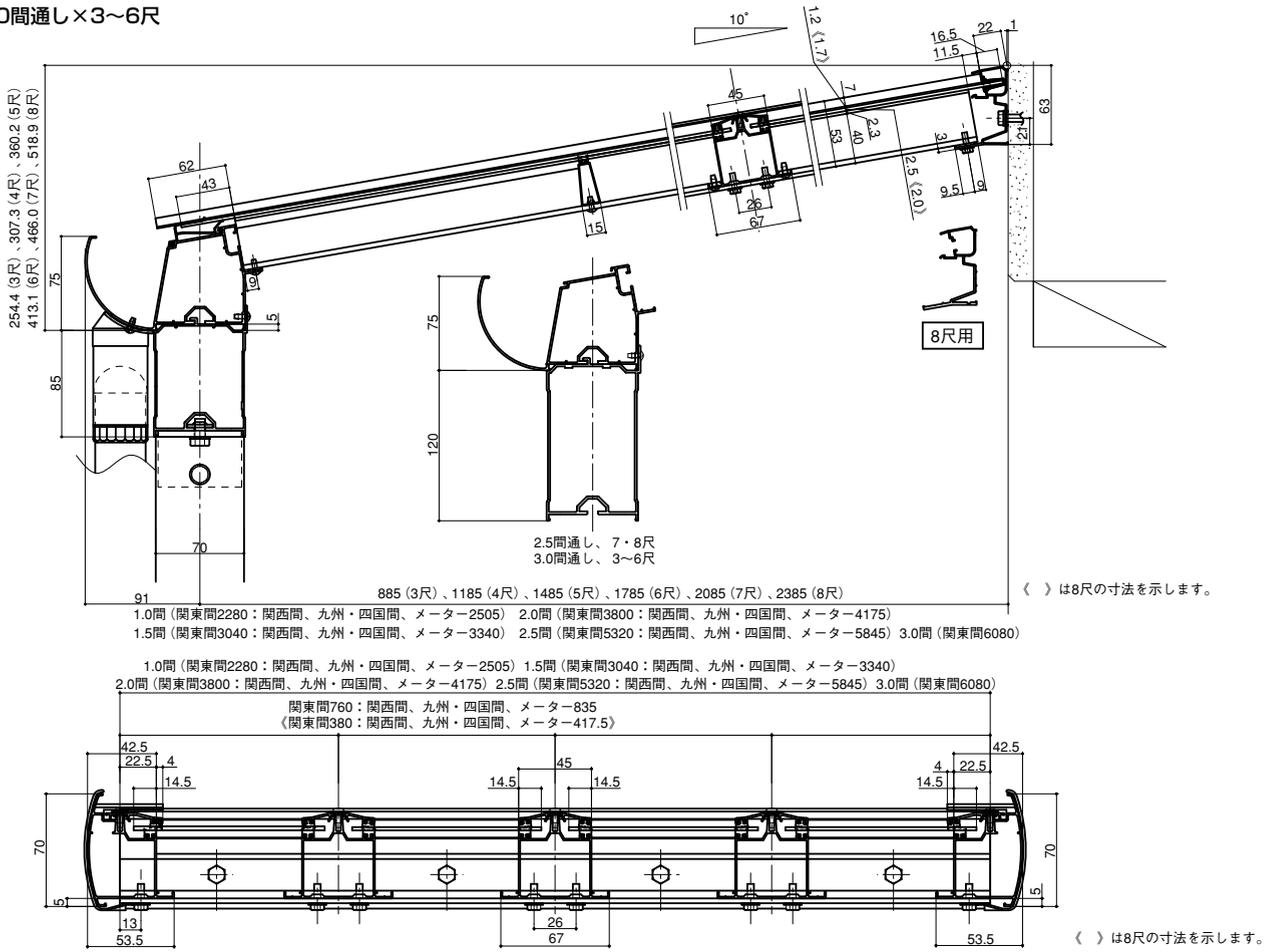
▲ 注意

● 指定の個所に必ずシーリングしてください。

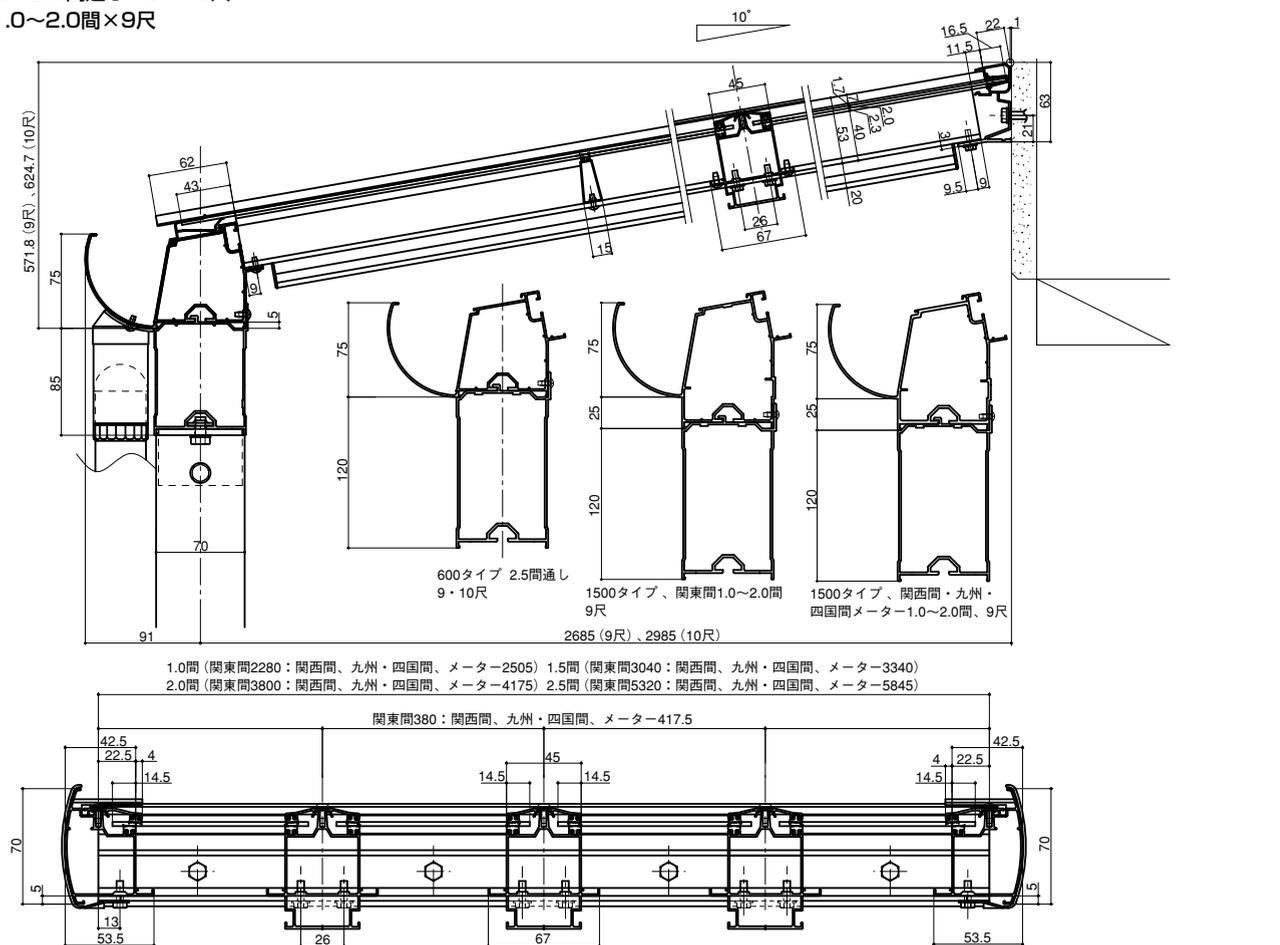


■納まり図

- 600タイプ 1.0~2.5間通し×7・8尺
- 600タイプ 3.0間通し×3~6尺

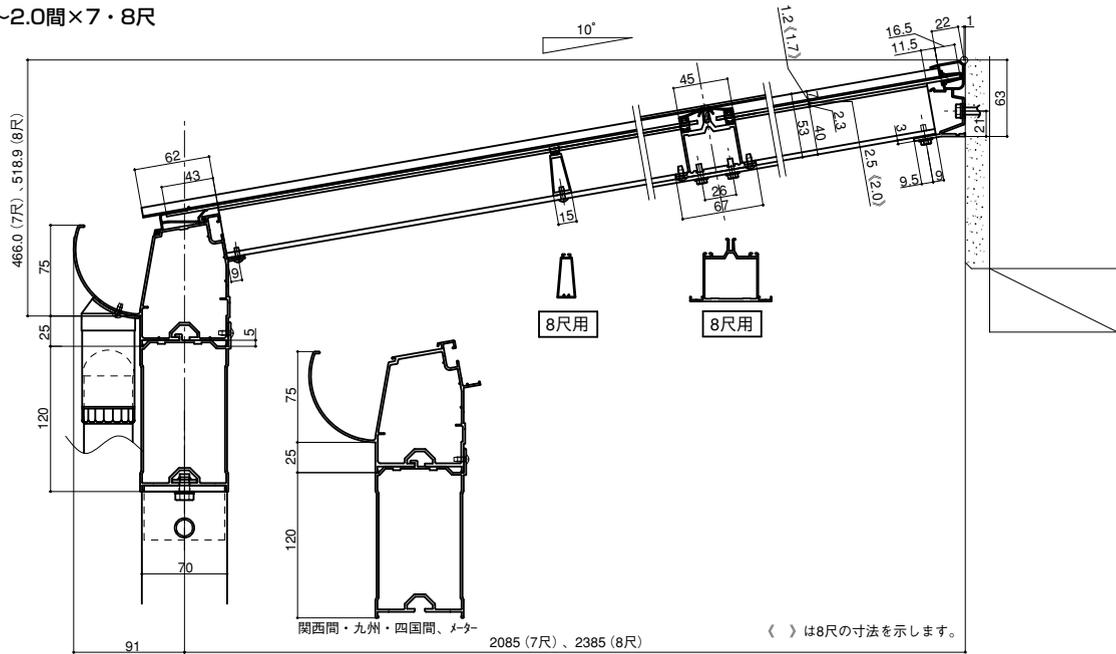


- 600タイプ 1.0~2.5間通し×9・10尺
- 1500タイプ 1.0~2.0間×9尺



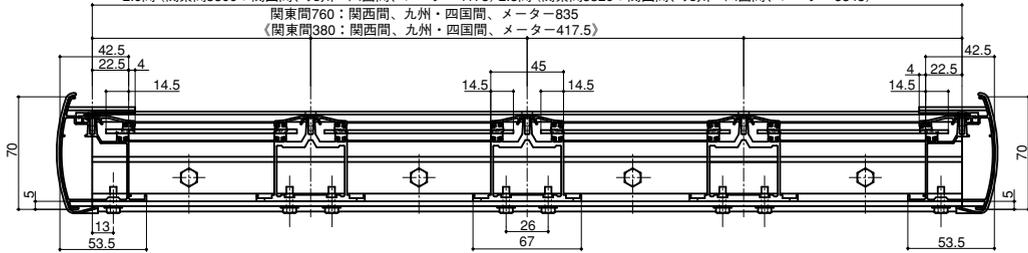
■納まり

●1500タイプ 1.0~2.0間×7・8尺

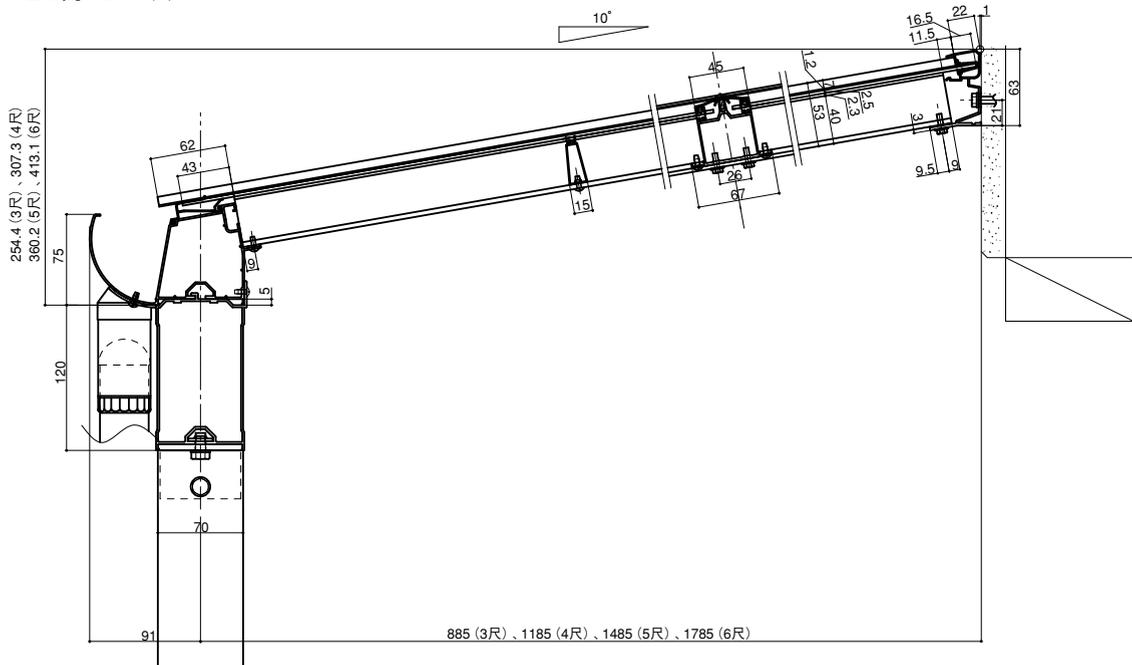


1.0間 (関東間2280: 関西間、九州・四国間、メーター2505) 1.5間 (関東間3040: 関西間、九州・四国間、メーター3340)
 2.0間 (関東間3800: 関西間、九州・四国間、メーター4175) 2.5間 (関東間5320: 関西間、九州・四国間、メーター5845)

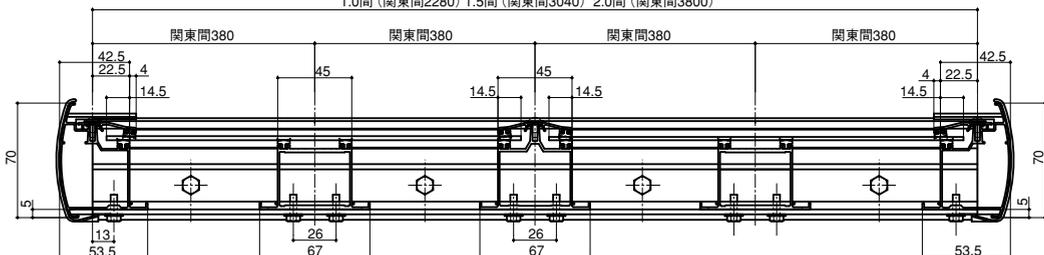
関東間760: 関西間、九州・四国間、メーター835
 (関東間380: 関西間、九州・四国間、メーター417.5)



●3000タイプ 1.0~2.0間×3~6尺

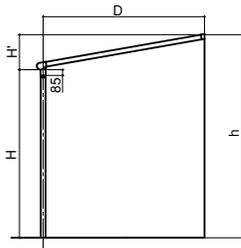


1.0間 (関東間2280) 1.5間 (関東間3040) 2.0間 (関東間3800)

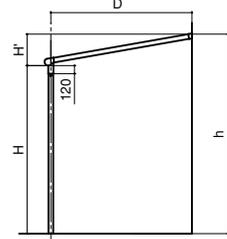


●単体

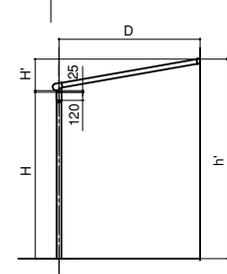
600タイプ
1.0・1.5・2.0間



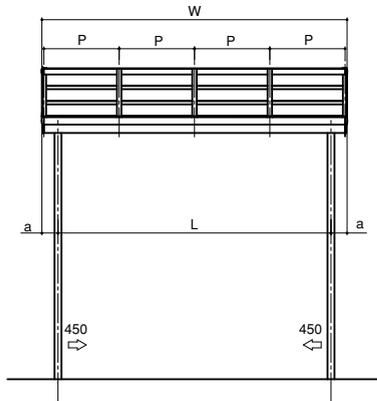
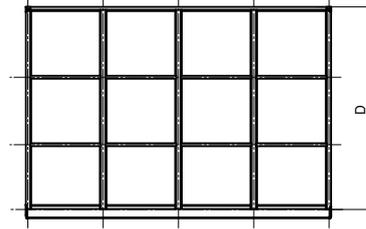
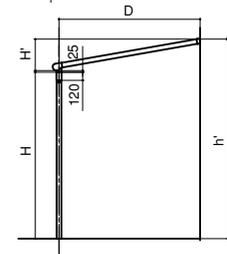
3000タイプ
1.0・1.5・2.0間



600タイプ
2.5・3.0間通し



1500タイプ
1.0・1.5・2.0間



出幅

呼称	D
3尺	885
4尺	1185
5尺	1485
6尺	1785
7尺	2085
8尺	2385
9尺	2685
10尺	2985

高さ

呼称	H	H'	h
3尺		254.4	2754.4
4尺		307.3	2807.3
5尺		360.2	2860.2
6尺	2500	413.1	2913.1
7尺		466.0	2966.0
8尺		518.9	3018.9
9尺		571.8	3071.8
10尺		624.7	3124.7

※h' (1500タイプ) の場合は、h+25
 ※本図の柱の長さは標準柱を示します。
 ※長尺柱の長さは標準柱+600mmになります。
 ※造付けバルコニー接続の場合、Hは2250mm、(長尺柱の長さは+450mm)になります。

間口 (関東間)

呼称	P	P (8~10尺)	L	W	a
1.0間			1850	2320	235.0
1.5間			2755	3080	162.5
2.0間	760	380	3650	3840	95.0
2.5間			4605	5360	377.5
3.0間			5510	6120	305.0

間口 (関西間)

呼称	P	P (8~10尺)	L	W	a
1.0間			2050	2545	247.5
1.5間	835	417.5	3005	3380	187.5
2.0間			3960	4215	127.5
2.5間			5055	5885	415.0

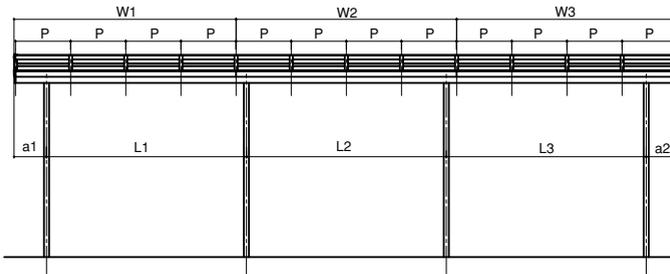
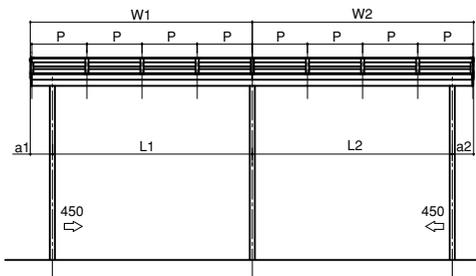
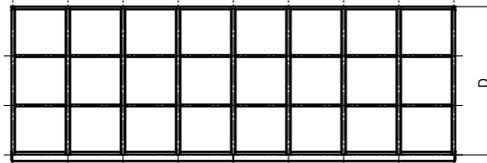
間口 (九州・四国間)

呼称	P	P (8~10尺)	L	W	a
1.0間			1945	2545	300.0
1.5間	835	417.5	2900	3380	240.0
2.0間			3855	4215	180.0
2.5間			4845	5885	520.0

間口 (メーター)

呼称	P	P (8~10尺)	L	W	a
1.0間			2000	2545	272.5
1.5間	835	417.5	3000	3380	190.0
2.0間			4000	4215	107.5
2.5間			5000	5885	442.5

●連棟



間口 (関東間)

呼称	P	P (8~10尺)	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)			2755	2755	—	3060	3060	—	305	305
3.5間 (1.5+2.0)			2755	3650	—	3060	3820	—	305	170
4.0間 (2.0+2.0)	760	380	3650	3650	—	3820	3820	—	170	170
4.5間 (1.5+1.5+1.5)			2755	2755	2755	3060	3040	3060	447.5	447.5
5.0間 (1.5+2.0+1.5)			2755	3650	2755	3060	3800	3060	380	380

間口 (関西間)

呼称	P	P (8~10尺)	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)			3005	3005	—	3360	3360	—	355	355
3.5間 (1.5+2.0)			3005	3960	—	3360	4195	—	355	235
4.0間 (2.0+2.0)	835	417.5	3960	3960	—	4195	4195	—	235	235
4.5間 (1.5+1.5+1.5)			3005	3005	3005	3360	3340	3360	522.5	522.5
5.0間 (1.5+2.0+1.5)			3005	3960	3005	3360	4175	3360	462.5	462.5

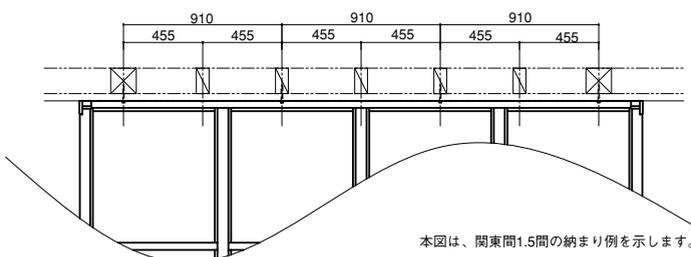
間口 (九州・四国間)

呼称	P	P (8~10尺)	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)			2900	2900	—	3360	3360	—	460	460
3.5間 (1.5+2.0)			2900	3855	—	3360	4195	—	460	340
4.0間 (2.0+2.0)	835	417.5	3855	3855	—	4195	4195	—	340	340
4.5間 (1.5+1.5+1.5)			2900	2900	2900	3360	3340	3360	680	680
5.0間 (1.5+2.0+1.5)			2900	3855	2900	3360	4175	3360	620	620

間口 (メーター)

呼称	P	P (8~10尺)	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)			3000	3000	—	3360	3360	—	360	360
3.5間 (1.5+2.0)			3000	4000	—	3360	4195	—	360	195
4.0間 (2.0+2.0)	835	417.5	4000	4000	—	4195	4195	—	195	195
4.5間 (1.5+1.5+1.5)			3000	3000	3000	3360	3340	3360	530	530
5.0間 (1.5+2.0+1.5)			3000	4000	3000	3360	4175	3360	447.5	447.5

〈木造軸組工法 躯体納まり図例〉



本図は、関東間1.5間の納まり例を示します。